

特別企画「技術士編」(前編)

特別企画によせて

西八條正克

「バイオ系のキャリアデザイン」は、2014年6月号(第92巻第6号)からスタートし、キャリアデザインに悩み、迷う大学生や院生、ポスドク、そして、転職を考える読者にエールを送るべく、産学官のバイオ分野で活躍中の方々にご自身のキャリアを語っていただく記事を連載しています。

2019年には「特別企画」として、『アカデミア編「ラボ立ち上げました」』『バイオ系の海外就職指南』が掲載されました。ラボの立ち上げや海外就職という、他に類を見ないテーマを設定して複数の執筆者のキャリアを掲載するスタイルが功を奏したのか、記事のダウンロード件数も多く、多方面からご好評をいただきました。

今回は国家資格である「技術士」に焦点を当て、各方面で活躍されている生物工学部門の技術士の方々に、前編、後編の2号にわたり、そのキャリアを語ってもらいました。ただ、そもそも「技術士って何の資格?」という方も多いと思いますので、技術士のキャリアだけでなく、技術士の制度や、技術士が所属する日本技術士会生物工学会についても紹介し、読者の方々に、「技術士」を深く知ってもらえる内容としました。

前編では、日本技術士会・理事の柿谷均さんに「技術士制度」を概説していただきました。キャリアについては、企業で勤務しながら多方面で活躍される本田大士さん、弁理士と技術士のダブルライセンスで独立開業された森本敏明さん、育児をしながらフリーランスでの働き方を模索されている山村裕美さん、企業からアカデミアに転身された藤田聡さんにそれぞれのキャリアを振り返っていただきました。

後編では、多くの技術士が所属する日本技術士会とその下部組織である生物工学会について、日本技術士会生物工学会会長の東田英毅さんにその活動をご紹介します。また、日本技術士会で活躍している、または、活躍してきた技術士に、その内容を含めてキャリアを語ってもらいます。APECエンジニアでもあり、日本技術士会の国際委員会で技術士の国際通用性について検討されてきた富田因則さん、独立行政法人製品評価技術基

盤機構(NITE)と日本技術士会との連携体制構築に尽力された藤原和弘さん、技術士として海外との交流や若手の育成に注力されている田中仁美さんの3名にご執筆をお願いしました。

キャリアについて執筆していただいた7名のうち、独立開業技術士2名、アカデミアから2名、企業勤務が3名、また7名のうち2名は女性の技術士、年齢も30代~50代と幅広く、技術士の多様なキャリアを読者の方々に知っていただけたと思います。

「技術士」がどういう資格であるかは、次頁以降をご参照いただきたいですが、技術士資格は産業界における「博士号」のようなものだと、個人的には思っています。ある一定レベルの能力を有する技術者の証明であり、その証明により、学会とは異なる、多様な人脈形成が可能になり、また、さまざまな機会を得ることができていると思っています。

これから進路を決められる若手の方々には、本企画を通じて、大学で研究を続ける、企業に就職する以外にもさまざまな道があること知っていただけたでしょう。現在のキャリアに悩み、将来に不安を感じている研究者、技術者の方々は技術士取得に挑戦するのも良いかもしれません。きっと、新たな道が切り開けると思います。さらには、定年退職を迎えるベテランの方々にも技術士の多様な活躍の場を知っていただき、セカンドキャリアを考えるヒントになればと思っています。もし、何か質問や悩みのご相談があれば、執筆者の方々にぜひ、メールを送ってみてください。皆さん、きっと何かしらの返事をくださると思います。技術士とはそういう「生き物」であると思っています。

本企画によって、多くの方に「技術士」を知ってもらうとともに、一人でも多くの研究者・技術者が「技術士」を目指すきっかけになることを期待しています(多くの技術士の日本生物工学会への入会も期待しています)。また、この企画をきっかけに日本生物工学会と日本技術士会生物工学会の連携が生まれ、両会のさらなる発展につながることも願っています。